

校長室だより

第61号

発行日 2011年12月16日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤滋

【感謝の心】

桐光学園小学校では、体験学習を多く取り入れていこうと考えており、低学年のうちから必要であると思われるときは積極的に校外に出て行くようにしています。そこでいつも気になるのは、見学の態度やマナーだけでなく、受け入れてくださる方たちへの子どもたちの気持ちの持ち方、表し方です。多くの子どもたちは、しっかりと挨拶をし、見学中も失礼のないように気をつけながら担当の方の説明などをしっかりと聞くことができます。そして、見学後にお礼のメッセージカードを送るなどもしています。しかし、ときどき見学中に、好ましくない話の聞き方や他の見学者の迷惑になるような行動も残念ながら見られます。

もちろん校外に出て活動する前にはその都度、公共の場でのルールを守ることや、失礼のない行動を心がけるように話をしています。しかし、なかなか先生たちからの声は届きません。何が足りないのでしょう。一つ思うことは、「見学している」ではなくて「見学させていただいている」という意識が薄いということかもしれません。子どもたちに望む気持ちの持ち方は、自分がそこで見学や勉強を「している」ではなくて「させていただいている」というものなのです。いろいろな人たちに迷惑をかけてしまうこともあります。それだけに、校訓にあるところの「感謝の気持ち」を忘れることなく、謙虚な心で社会に出て行き、そこで自分を磨くようにしなければならないと考えます。料金をとって、それに見合うサービスを提供する、遊園地やテーマパークではないです。また、子どもの中に「楽しい・楽しくない」「おもしろい・おもしろくない」ということでしか物事を判断できる力がないと様々な見学も実施する意味がなくなってしまいます。子どもたちに、体験学習の目標をしっかりと理解させて取り組ませることは言うまでもありませんが、ご家庭でも、いろいろな機会に、多くの人たちのお世話になっていることを子どもたちに伝えていたきますようお願いします。

さて、少し前のことですが、ある学級の先生の日誌に、「毎日お弁当を作っていていることへの感謝の気持ちが感じられない。食事のマナーもなかなか改善できない。」というような内容の文章がありました。もちろん先生が子どもたちに何も声かけをしていないのではありません。どうして、「お弁当を作っていていることに感謝し、その気持ちを持って食事をしましょう。」という声が子どもに届かないのでしょうか。ご家庭での食事風景は私たちには見えませんが、家族みんなで食事をするときの子どもたちの様子はいかがでしょうか。学校での食事の様子が、家庭での様子と大きな差がないとしたら、子どもによってはしっかり見直していくといけないところだと思います。

【ケータイ】

いつも話題になるのは子どもの携帯電話の使い方です。通話、メール、インターネット、カメラ、テレビ、GPS・・・と、もはや「携帯電話」から「ケータイ」と言い方も変わってきてるように多くの人たちにとって、単なる通信手段のための機器から、日常生活の必需品（本音ではそうは思いたくないのですが）になりつつあるようです。コマーシャルでは、テレビ番組が見られるし映像がきれい、写真がきれい、小説が読める、音楽が聴ける、・・・などの宣伝文句が盛んに流されています。機器を販売し、サービスを提供する側はその利便性しか伝えようとしません。あとは使う人の問題だということなのでしょう。しかし、このケータイがときに、子どもたちを危険な世界に引き込んでしまうことがあります。ネットの世界で横行する出会い系サイト、メールによる苛めなどです。昔から苛めや意地悪はありました。でもそれは子ども同士がお互いに向き合った状態から始まったものでした。今はどうでしょう。本人が何も知らないうちに苛めの対象になっていたり、仲間はずれになってしまったりしていることもあるようです。見えない世界で行われる苛めです。恐いです。

小学校でも、災害時、非常時に備えてということで、半数近くの子どもたちが携帯電話を持ち歩いています。緊急時の家族との連絡だけに使うと言う約束は、登下校時の約束であって、それ以外の時間にはどのような使い方がされているのか分かりません。このような状況で保護者の皆さんは子どもたちのケータイ、特にメールの使い方をどの程度把握しているでしょうか。数年前にこの小学校でも、ケータイを使ったメールのやりとりで嫌な思いをしていた子がいました。そして今もそういう子がいるかもしれません。私たちにはそれが分かりません。見えません。どこかで子どもが自分から話してくれないと分からぬことが多いっています。ただ、メールのやり取りは相当頻繁に行われているという情報だけは私の耳にも入ってきます。

今、携帯電話を持ちたがる子どもは多いでしょう。しかし、持たなくとも日々の生活をしっかりと送ることができます。携帯電話を持ってしまったために、煩わしい思い、嫌な思いをしている子どもたちもいるかもしれません。大人でも、メールのやりとりが煩わしくてアドレスを変更する人がいます。子どもはどうでしょう。「嫌なメールが来るからアドレス変更したい」となかなか言えないのではないのでしょうか。

「安全、安心を求めるからケータイ?」・・・「安全、安心」のために用意したケータイには、たくさんの危険もあります。使い方を誤ると苛めの道具にも、凶器にもなります。ケータイを使ったトラブルは起きてほしくありませんが、気になることがあったら早い段階で保護者同士連絡を取り合って確認をしたり、学校に知らせたりしましょう。子どもたちの心が悲鳴を上げる前に力になってあげてください。